

令和2年度 第4回 松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

1 日時

令和2年11月25日（水） 午前10時～正午

2 場所

松本市役所本庁舎 大会議室

3 出席委員（12名）

会長	佐藤 友則	委員	陳 思静
副会長	犬飼 プリヤモン	委員	持山 シャロン
委員	村井 博子	委員	松井 一晃
委員	伊藤 由紀子	委員	岡田 忠興
委員	太田 文雄	委員	古畑 祐司
委員	高橋 淳		

4 事務局

総務部人権・男女共生課	課長	前澤 典子
同上	課長補佐	藤松 智彦
同上	主事	寺西 彩里
同上	主事	梶山 直樹

5 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 会議事項

ア 第3次松本市多文化共生推進プラン（素々案）に対するご意見について

イ 第3次松本市多文化共生推進プラン（素案）について

ウ その他

(4) 閉会

6 会議の要旨

次ページ

会長

ご説明どうもありがとうございました。

まずは資料1に戻りまして、前回第3回の協議会での素案に対する意見、それについて、今回参考若しくは反映というかたちでの提案に対し、ご意見ございましたらお願いします。

(すぐに意見は出ず)

私から1点、資料1 No. 10、「参考」というかたちで、プランには明記しないこととなっています。私は、プランへの明記ということに関し、それほどこだわりませんが、ただ一步踏み込んで、人権・男女共生課が就労に関わっていただく必要があると思います。

ハローワークとの連携は当然のことで、ハローワークだけでなく、実際に外国由来の方が働いている機関などとの連携が大事になります。すぐに正規雇用が難しいのであれば、留学生が働いているような弁当屋さんであったり、そういったところを把握し、どれくらいそういった機関を紹介できるのか。今までの枠組みとは、別の就労支援が必要です。

私は、松本に住んで21年、多文化共生に関わって17～18年になりますが、その間、非常に優秀な外国由来の住人が松本を出て他のまちに行ってしまう。やはり、いい仕事が松本にないからです。今の時代、人材の奪い合いが世界中・日本中で起きており、キーパーソンと言われている人たちも、いつまで松本に住んでくれるか分かりません。やはり、いい仕事がなければ、日本人以上にどんどん移動します。その点で、この就労に関し、もう一步踏み込んで、今後5年間の施策により深く関わっていただきたい。外国人のサポートというより、会社にとっても大きな援助になる。そういった視点で、一步踏み込んだ施策を考えていただきたいと思います。

委員

今の会長のご意見に関連しますが、私も今後の定着が非常に重要だと思っております。素案の11ページ「定着を目指す視点」とあります。前回の協議会で、他の委員さんから、第1のポイントとして考えてもいいのではないかとご指摘もありましたが、私も同様に考えておりまして、定着という視点だと、松本市内で、子どもを育て、成長させるということが重要になります。

その場合に、素案の43ページ基本目標2「教育・子育て」の分野で「困っていることがある保護者の割合」の現状値56%で、目標値として30%ですが、3人に1人の保護者は目標値に達しても困っているという状況になるわけで、

子育て・教育という部分についても、重点的に取り組んでいった方がよろしいのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。

事務局

会長から、就労についてお話がありましたが、職業斡旋というものが市でできるのかというのは、検討していかなければいけない部分です。やはりハローワークさんとの連携という点で、今まで足りないところもありましたので、まずそこをしっかりとやっていきたいと思っております。また、今回施策を検討するにあたって、ハローワークさんともご相談させていただいています。

ハローワークさんからもご意見いただけますでしょうか。

委員

確かに市との連携をやっていかなければならないと思いますが、外国人の職業相談を担当するものとして、感じることを言わせていただくと、求人票を出している会社に問合せをすると、まず聞かれるのが「日本語はどれくらい話せますか」ということです。本人の日本語能力によっては、問合せの時点で断られてしまったこともあります。市で就労に向けた日本語講座を開催するなどし、協力いただければ一歩進んだ取組みになるのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。ただ、今のご意見だと今までこの10年協議会で話してきたことと、正直変わらない話であると思います。確かにフルタイムの正規職員であれば、日本語能力は極めて重要です。しかし、これまでの調査でも分かっていますが、10人外国人従業員がいても、1人日本語ができれば構わない、全員日本語が出来なくても構わない、と答えている会社もあります。市で斡旋ができないというのは、そのとおりだと思いますが、人権・男女共生課が仕事の情報を持っていて、お金をもらっての斡旋ではないかたちで、キーパーソンなどにそういった情報を流すことはできると思います。それくらいのことをやらないともう駄目だと言っているわけです。これまでの議論を聞いていると、どうもこの先何も変わらない。このままだと松本に人は来ません。松本は、仕事もあるし、市役所も助けてくれる人たちがいるから、松本はいいぞという噂がどれくらい全国で流れるか。そして優秀な、新たなキーパーソンとなる人がどれくらい来てくれるかが大事です。

可児市の場合は、バラ教室という全国的に有名な外国由来の子どもへの日本語教育があり、そこで育った子供は可児市を離れません。残念ながら、松本はそこまでできていません。そうすると、ある程度流動的な人たちをどれくらい松本にひきつけられるかが重要になると思います。

委員

参考になるか分かりませんが、私どもは、フードバンク信州の松本の拠点として活動しており、食糧支援をとおして、このコロナ禍で市内A専門学校の留学生が困っているという情報を得ました。そこで、アルバイトのようなかたちですが、放課後事業に留学生に参加してもらったところ、留学生と子どもたちがお互いに日本語を自然に会得できる環境を作れました。サービス業などと違って、非常に難しい職場ではありますが、コミュニケーションの面で、偶発的ですが、非常にいい効果が出ました。子どもたちも多言語に触れるという点でいいことがあり、留学生の方にもアルバイトというかたちで収入を得られたという事例でした。受け入れるというところを柔軟に捉えれば、もしかしたら将来的にこういう現場も活用できるのかなと思っています。

会長

貴重な情報ありがとうございました。A専門学校も非常に力のある学校で、多くの市内企業と繋がっているにもかかわらず、困っている。それくらい厳しいのが現状です。すぐにアルバイトとしてお金にはならないけれど、日本の子どもたちと接することで、日本語能力の向上にも繋がったということですね。学校で勉強するよりもはるかに効果的な学習になる。これは6年前の調査でも分かっており、かたい教室でなく楽しく話せるような教室がいい、という意見がいろいろな外国由来の方からありました。

今の話の続きで、就労に繋がるわけではないけれど、わずかな賃金を得られ、人材育成に繋がる、サポートにつながるといった場も含め、人権・男女共生課でリストアップし、キーパーソンを通じ流してもらうのは有効かと思います。

他にご意見ありましたらお願いします。

副会長

素案41ページにある、キーパーソン活動「つながる」、「つたえる」、「参加数する」、「よりそう」のキーワードをすごく気に入っています。今後キーパーソンを募集していく前に、このページを翻訳し理解を進めていくのがいいと思います。そして、長くキーパーソンを続けてもらうのも大事で、その場合ボランティアでなく、報酬ということも考えていく必要があると思います。このプランは、

5年間のプランですので、徐々に取り組んでいただければ。協力も致しますので。

やっぱり、外国人も幸せになる社会でないと、全体的に幸せな社会にならないと思います。その意味で、多文化共生キーパーソンは、どんなことにおいても大事だなと思います。ぜひ、優先的に取り組んでもらいたいと思います。

会長

ありがとうございます。第5章のところにまで、言及をいただきました。いずれにしても、就労の部分の取組みをぜひ進めていただきたいと思います。

続きまして、第4章具体的施策について、前回で伝えきれなかったご意見等ございますでしょうか。

委員

素案22ページNo. 38の「動画作成」は、とてもいいと思います。43ページの指標「子育てで困っていることがある保護者の割合」に関連して、学校生活の情報だけでなく、例えば生活リズムの話だとか、子育てに繋がる内容も入れた方が、日本人にも外国人にも使えるかなと思います。

コロナの情報もそうですが、みんなが長い文章などを読むわけではありません。手間ですが、本当に大事な情報は、簡単な説明で誰にでも分かりやすい動画があれば、役に立つかなと思います。

多文化共生プラザの料理教室、今はやっていないと思いますが、今後もしやるとしたら、オンライン開催はどうかと思います。以上です。

会長

ありがとうございます。第2回の協議会でこの「動画作成」の意見をいただき、学校指導課の方で検討され、プランとして記載いただきました。ご理解ご協力に感謝したいと思います。

今の話のようにガイダンスの動画を手始めに作るのはいいいと思いますが、それだけでなく、子育てを始める新米の親御さんに役に立つ動画、小学校入学前の動画、中学校入学前の動画、というのも必要かと思います。いずれの動画も、多言語の必要はなく、やさしい日本語でいいです。動画の効果が十分にあると認められる場合は、予算をとり外国語テロップを付ける、というので十分かと思いません。

また、日本語に限らず、外国語の情報であっても、必ずしも読むかどうか分からない、という調査結果があります。これは、2019年のインタビュー調査によるものですが、例え、母国語で書いてある情報であっても、興味がなければ読まない。これは、日本人も同様だと思い、非常に同意ができるものでした。その

意味でも、短いからちょっと見てね、と案内した動画であれば、かなり頭に入り、そのうえで、自分の言語で書かれたものをじっくり読んでくれる人は出てくるかもしれません。その点でも、大きな変革の時期ではないかと思います。今まで「多言語でこれだけのものを作りました」とやっても、実際には長期在庫です。いろんな言語のものが山積みになっている。これからは、そういったものを作るよりも動画を作ることに労力をかけた方がベターかと思います。

委員

コミュニケーションのところで、素案20～21ページで日本語支援と新たな日本語教育体制の推進というところがあります。これは、ぜひ重点とまでは言いませんが、取組みを具体化していただきたいなと思います。長野県の統計資料によると、松本市には、日本語教室が11あります。長野市は3つしかありません。松本市は非常に多いです。このプランに書かれている施策をぜひ実現していただければ、相当な力になるのかなと思います。そのためにも、どのような状況にあるのか、たぶんこのコロナ禍で実質動いてないところもあるのかもしれないし、ちゃんとやれているところもあるのかもしれないし、教室によって中身はバラバラで、それも特色があっていいと思いますが、最低限ここら辺はやりましょうといった繋がりであったり、市の関わり方みたいなのところも、ぜひ今後の5年間で詰めていっていただけたらと思います。

会長

ありがとうございます。文化庁が地域の日本語教室というものを抜本的に考えはじめており、今までのボランティアが教えるというものでなく、日本語教師などのプロが教え、一般の方たちは会話パートナーとして教室に入るといったかたち。そういったかたちを今オンラインで行っているのが県の事業になります。

あくまで従来どおりの教室を動かすのに労力を割くのがいいのか、私はまだ考えているところですが、文化庁が考えるかたちの方が持続可能なのではないかと思います。いわば、日本語ボランティアを20年やっている方たちが、燃え尽き症候群になっており、力のある若い人が後を継いでいない。そういった状況をそのままテコ入れしようというのは、限界があるのではないかと考えています。

他の委員さん、いかがでしょうか。

委員

確認したいことですが、前回他の委員さんからも出ました、素案11ページの「定着を目指す視点」というのを(1)に持つてくるというのは、するのでしょうか、

しないのでしょうか。(1)に持ってくれば、そのあとが、そのために何をするかというふうに繋がると思います。考え方としては、どうなのでしょう。いちばん大事なものが(1)に来ているのか。最後まとめとして(4)が来ているのか。少し気になります。

事務局

素案10, 11ページの内容は、体系図ともリンクするようなかたちになっています。私どもとしては、順番という概念はなく、どれも大事という考えで載せています。第2次プランでは、基本理念にも番号が振ってありましたが、今回は番号をなくし、どれも並列で大事です、としています。もちろん順番を入れ替えることも検討できます。他の委員さんのご意見はいかがでしょうか。

会長

体系図で言いますと、一番下の基本理念「地域づくりにつなげる」が一番上に来るといふ趣旨のご意見ということによろしいのでしょうか。他の委員さんからはいかがでしょうか。

委員

やはり順番がついてなくても、一番上にあるものが目を引くというのは、人間の習性かなと思います。第2次プランからの大きな違いが出ていないのではないかというご意見もございましたので、検討いただければいいかなと思います。

会長

確かに他の地域の方がプランを見ると、体系図しか見ません。そういった意味でいちばん上に「地域づくり」がいちばん上にあるのは、賛同できるものではないかと。

かなり大きな変更になりますが、他の委員さんからはいかがでしょうか。

委員

私も「定着を目指す視点」を上を持ってくれば、一過性でなく、松本にずっと住み続けるという視点で、キーパーソン・ネットワークを整えとか、日本語教室を充実させるとか、就労支援を実施するとか、いろんなことが繋がってくると思います。外国人の方の在留資格として、在留期間を更新しずっといらっしゃる方もいますが、基本は1年、3年、5年という単位でいらっしゃいます。そういった方たちにどうやって松本に居ていただくかという視点は、大事かと思えます。

会長

それでは、ここは可能でしたら、14ページの体系図は、「地域社会」をいちばん上に持ってくる方向で意見をまとめたいと思います。ありがとうございます。

委員

先ほどの日本語教室の現状を皆さんに知っていただければと思います。実際みなさんボランティアでされていて、ほとんど綱渡り状態で運営されているのが現状です。市に会場の確保などをしていただき、運営が成り立っている教室もありますが、支援者自身は、ほぼ100%ボランティアで、時間を使って、自分で勉強して指導書を作って、指導するというのをボランティアでやっています。ですので、教室数が多いから十分だという訳では全くなく、今後松本の日本語教育をどうするのか、ということの本気で考えないと、定着という視点で、難しい部分があると思います。実際、日本語教室はたくさんありますが、外国人住民全体の数%しか通っていませんので、充実しているとは言えません。いちばん日本語教室を近くで見ているものとして、みなさんにお伝えしておこうと思いました。

会長

情報提供ありがとうございました。

それでは、第4章まではこれまでとし、今日のメインにもなります。第5章に入りたいと思います。キーパーソンは、10年前からプランで記載してきたものでありますが、残念ながら動いていないまま経過してしまいました。ただ、昨年キーパーソンの意見交換会を企画し、今までのキーパーソンとは違う種の方々や松本が好きという方々が30名ほど集まり、その場でキーパーソン登録された人もかなりおり、本来なら今年の春・夏と再び意見交換会を開催予定でした。そういったところで、本気で人権・男女共生課が動いてくれているのは私も実感しております。その流れで、このプランへの記載になってきているというところ です。以前、協議会の中でもキーパーソンとはどういう人なのかという定義、キーパーソンは何をするのか、を決めていく必要があるのではないかと発言したことはありましたが、それがかたちになっているのが、この第5章と考えております。まずは、ご覧になった委員さんからご意見いただければと思います。

委員

施策として文字にするといいなと感じるのですが、実際に動く時に、誰が中心になって実働するのか、というところが気になります。私たちは委員として、こ

の場で議論をしますが、実際にキーパーソンになった人は、何をすればいいのか分からない、という意見が常にあったと思います。ということは、コーディネーター役になる人達が、キーパーソンの中にもいなければいけない。常にどこかと繋がっていかなければいけない。例えば、それを行政が窓口になって回るのか、多文化共生プラザが窓口になって回るのか、という問題があると思います。

だから、文章としてはこれでいいと思いますが、実働するためには、もっと誰が何をすべきかということを実際にキーパーソンになられた方といっしょに考えていく場がもう一つ必要かなと思います。丸投げ状態だとみなさん何をしたいのか、確かに橋渡しの役割・目的は分かったけれども、何をすればいいのか分かる人、分からない人は、当然いらっしゃるし、やっぱりそこがバラバラになるのか、そこをもう少し束ねる方向性で動くのかってというのは、とても重要になってきます。

そこを充実させるために、私たちがもっと議論すべきなのか、キーパーソンの人達といっしょになって議論すべきなのか、ここで確認できればと思います。

会長

やはりキーパーソン研修会がどれくらい機能するか。今までですと、キーパーソンに情報提供する、というかたちが多かったと思いますが、「こういう活動をしたら、こういった効果があったよ」といったキーパーソン同士の意見、それとある程度優れた研修会のファシリテーターが必要だと思います。キーパーソンのやる気やニーズを見て、方向性などを決められるようなファシリテーターが、もちろん事務局で務められればそれが一番ですが、それ以外にもファシリテーター役がいて、研修会・ネットワークが動いていけばいいと思います。

委員

同じ様な取組みとして、長野県地域共生コミュニケーターという制度があります。私もその肩書でこの協議会に参加しております。私も何度か長野県にご意見申しあげたことがあります。制度として機能していません。役割として、長野県が発信するニュースレターを外国籍の方にお配りするだとか、外国籍の方から聞いた声を長野県に届ける等がありますが、そのほかには特にありません。私も自分でいろいろ考えて、この協議会に参加したりとか、日本語教室でボランティアをしたり、通訳をしたりとか、行政書士として在留資格のサポートをしたり、いろんなところで関わらせていただいております。

自分で考えて何かをやるという段階で、何が必要かと言うと、キーパーソンに登録した方たち同士の繋がりで、「わたしは、こういうことをやっていますよ。」ということ、みなさんと共有してもらおうのが大事になると思います。

会長

ありがとうございます。活動例ですよね。気楽に話し合えるような場があり、事例がどんどん出てくるような場があればいいと思います。他の委員さんどうでしょうか

委員

キーパーソンは本当に重要になってくるなと思いながら、聞いていましたが、そもそもキーパーソンになる方の登録推進の取組みとありますが、目標値はあるのでしょうか。

事務局

今、キーパーソンに登録いただいている方が、日本人・外国人全体で、約50名という状況です。まだ目標値として、数値は設定しておりませんが、重点的な取組みにもなっておりまいますので、指標になるようなものを検討してまいりたいと思います。

委員

ありがとうございます。もう1点、キーパーソンになりたいという方は、応募すれば誰でもなれるという制度でしょうか。

事務局

これまで、広くキーパーソンの募集はしておらず、日本語ボランティアの方はこちらからお声がけをしたりとか、翻訳・通訳者の方にお声がけをして登録いただいていた。今後は、素案41ページ1-(2)活動例にあるようなことをやっていただけるような方であれば、どなたでも登録可能ということを考えております。

会長

他の委員さん、いかがでしょうか。

委員

よく見ると素案42ページの図で、「多文化共生キーパーソンがお住まいの地区」とありますが、先ほどみなさんで確認してもらった「定着」というものを最大限活かすならば、地域づくりセンターの役割が大変重要になってくると思います。今まで松本全体でキーパーソンを考えて、手上げ方式で募集してきましたが、なにせ地域が見えていないので、具体的な地域での活動に繋がらないのは当

たり前のような気がします。地域からのキーパーソンの発掘とか、地域でいろんな企画を考えていくとか、地域ごとの取組みというのがポイントになってくると感じます。

また、先ほどからボランティアでは限界があるという話も出ていましたが、私どもも居場所づくりの取組みとして、地域のボランティアと繋げようとしたのですが、なかなかうまくいきませんでした。少しでもいいから有償ボランティアのようなものを作るという点で、予算というものも重要なポイントになると思います。

相互扶助という意識が住民に根付くにはまだまだ時間がかかる気がしていて、今までサービスを受けるだけの住民から、お互いに助け合うという意識に移行するには、相当時間がかかる気がします。ですので、ボランティアという言葉が先行するよりは、もう一回仕切り直しをする意味で、「地域の中に住んでいる外国人も同じ住民だよ」という意識の方向性でやっていく必要があるのかなと感じます。

会長

実は、私は事前に事務局からいただいた案として、キーパーソンを中心とした別の図をいただいています。そちらの方が、個人のキーパーソンがどう繋がっており、何をするのかというのは、分かりやすかったと思います。もし可能であれば、そちらの図も記載することを検討いただければと思います。

また、今のインセンティブについても、私の方からも、第2次プランの時から何回か申しあげたことがあります。キーパーソンの中でも、他のキーパーソンをコーディネート・アドバイスする方と、ふつうに繋がっていただく方を分けたうえで、コーディネーターには何らかのインセンティブを提示できないか。報酬というものでなければ、委嘱状であったり、インビテーションカードであったりといったもの。やはり、外国由来の方からも、なぜ無償でやらなければならないのかという声もありますので、持続可能という点でもご検討いただければと思います。

委員

キーパーソンに関しては、本当に重要だと思っています。その意味で、これはプランに記載すべきものでないかもしれませんが、この第3次プランで具体化していくためのプログラムというか、どういうスケジュールで組み立てていくかといった、プランができあがった後の動きが見えないなと思います。

あと、先ほどからありましたように、登録したいと思う方の関わり方の部分で、ボランティアでいいよ、という方もいるでしょうし、責任というか、よって立つ

ところを明確にしたいという方もいるでしょうから、そこら辺を少し線引きなり、基準なりというところも検討していかないと、優秀な方に関わってもらおうという点では、そこら辺もあってもいいのかなと思います。

会長

ありがとうございます。行程表といったものでしょうかね。やはり事務局の方も入れ替わりがありますので、誰が来ても、「今この段階にいるから、自分はこれをやればいい」というのが分かるような、委員さんがおっしゃったように、必ずしもプランに載せる必要はないと思いますが、検討しておくのは大事かと思います。

委員

先ほどキーパーソンのインセンティブの話がありましたが、ひとつとして、新聞に出ることがあります。日本の新聞に出ましたと、自分の国にSNSで発信したら、すごく拍手されます。以前、タイのお坊さんが日本語教室で勉強をしている記事を発信したら、タイのお寺からすごく反響があり、たくさんコメントがありました。それもひとつのインセンティブだと思いますので、検討してください。

会長

あくまで個人名を出して構わないというキーパーソンに許可を得たうえで、市のHPであったり、マスメディアに掲載されるなどすれば、非常に大きなインセンティブだと私も感じました。

では、キーパーソンに関しては、ここまでとし、指標のところに入ります。

まず上から、目標値として、多文化共生プラザの認知割合「30%」とありますが、私は最低でも「50%」としたいと思います。というのも、2012年7月に設置していますので、せめて半分の方は知っている状態にならないといけないと思います。

それから、下から2つ目「外国人と何らかの関わりがある日本人住民の割合」。これも現在「50%」あるわけですので、せめて「70%」、がんばって「80%」。日本語を教えるわけではなく、教室にしゃべりに行くだけという人も増やしていけば、日本語教育そのものもよくなりますし、いろんなかたちで関わる人を増やすという意味では、目標値は高くてもいいのではないかと思います。

いかがでしょうか。

委員

目標値ですが、この数字にした根拠とか、実現性という部分で検討はなされていると思います。5年後この数値にさせるには、先ほどの具体的施策との関連の中で進められると思いますが、そういった整理が必要だと思います。

それから、数字の根拠が見えないというのがあります。全く別の計画ですが、環境基本計画では、実現するための行動計画みたいなものを別途作り、それぞれの役割、スケジュールと具体的にどんなことをやるのか、何年のスパンで目標を達成するかなどを決めています。

そういった実現するための取組みや、目標値の根拠と妥当性についてお聞きしたいです。

事務局

目標値につきましては、前回（平成26年）実態調査時と今回（令和元年）実態調査時の結果を比べ、下がったものは、前回結果並みに、上がったものは、その伸び率を参考に設定しております。

前回第2次プランでは、具体的施策の各項目の下に目標値を記載するという見せ方をしていました。その方が、「目標値を達成するために、このような施策がある」という見せ方で分かりやすかったと思いますので、前回のような見せ方に変更したいと考えております。

会長

よろしいでしょうか。それでは、時間も迫っていますので、最後の進行管理のところに入りたいと思います。

私の方で少し気になるのが、市民、地域が分かれている点です。確かに完全に一致するわけではないのですが、逆に企業、市民団体、関係機関がいっしょになっている点も気になります。これからの時代、就労ということを考えると、「企業・就労先」、「地域・市民」、そして「市民団体・関係機関」をそれぞれ一つにした方が現状に合うのではないかと思います。それくらい就労先というのは、大きな役割があるのではないかと考えます。

いかがでしょうか。

事務局

会長のご意見だと、企業と市民団体は分けた方がいいということでしょうか。

会長

そうですね。市民活動団体などサポートする側と採用する側の企業が別の関

係ですので。就労先も関わったうえで、このプランを動かしていかないといけないと思います。採用している企業、していない企業はあると思いますが、生活していく上では、「就労」は非常に大きなものですよね。その意味で、進行管理の上では、しっかり分けた方がいいのではないかと考えます。

委員

会長の考えがいいと私も思うのですが、文言の下に「市民の役割」、「地域の役割」と記載があるのは、あえて役割があるんだよと強調しているということでしょうか。逆に市民活動団体などのところは、「協働」と書いてありますね。やはり連携し、それを支えていくというのを示されたほうがいいのではと思います。また「進行管理」という文言がいいのかというところが引っ掛かります。毎年、協議会で年次報告で進行状況を確認していますが、管理するというのは、行政で管理するという意味合いでしょうか。

事務局

こちらの図につきましては、私どもがこちらの協議会を通じて、年次報告をし、それに対しご提言をいただくということを示しており、第2次プランとほぼ同様の図になっております。

ただ、協議会には関係機関、企業、市民団体の方に参加いただいておりますので、できれば今後は、それぞれの団体での活動を共有させていただくなど、より一歩進んだ進行管理のかたちを考えております。

委員

ありがとうございます。ただ、やはり何というか、行政目線だなと感じます。そうでなくて、市民レベルで考えた時にもう少し文言などを考えた方が分かりやすいのかなと思います。

私たちの役割というのは、今おっしゃったように、さまざまな情報提供をしながら、何ができるかをまとめていく、という認識なのですが、それが分かる図の方がいいかなと思いました。

会長

ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

それでは、素案に対する意見はこれまでにしたいと思います。続きまして、多文化共生プラザの相談時間について、事務局から説明をお願いします。

事務局

「多文化共生プラザの相談時間」について説明

会長

ご説明ありがとうございました。いかがでしょうか。2012年の発足当初は、できるだけ広くということで相談時間を設定しておりましたが、実績データも踏まえ、提示されたもので十分ではないかとも思います。

他の委員さんから、いかがでしょうか。

(意見なし)

それでは、事務局案のとおりで承認ということにしたいと思います。
最後に策定スケジュールについて、事務局からお願いします。

事務局

策定スケジュールについて説明

会長

はい、ありがとうございます。これで本日の議事はすべて終了いたしました。
事務局にマイクをお返しします。

事務局

委員のみなさん、どうもありがとうございました。

今回のご意見の中で「定住」、「就労」というのが重要になるとありました。お話を聞きながら、やはり私どもとしても繋ぎや繋がりが大事になってくると感じました。いろいろなところとの繋がりの中で生み出せるようないい施策があれば検討していきたいと考えております。

先ほど、スケジュールのところでもありましたが、第5回協議会は年明けになります。実は、現在の委員のみなさまの任期は今年の12月までとなっております。大変申し訳ありませんが、第5回につきましては、新しいメンバーでどうかたちになります。みなさんどうも2年間ありがとうございました。さまざまなご意見、ご提言いただいたものを施策に生かしていきたいと思っております。

以上で、本日の協議会を終了いたします。ありがとうございました。